



医師臨床研修

基 幹

- 公立豊岡病院臨床研修プログラム

協 力

- 京都大学医学部附属病院群 B プログラム/ C プログラム
- 神戸大学医学部病院群初期研修プログラムたすきがけコース
- ようか初期研修プログラム
- 綾部市立病院合同臨床研修プログラム
- 鳥取赤十字病院臨床研修プログラム
- 鳥取県立中央病院卒後研修プログラム

プログラムの概要

プログラム名称

公立豊岡病院臨床研修プログラム（プログラム変更予定）

プログラムの特徴

地域中核病院の特長を生かし、一般症例から稀少疾患まで豊富な症例を経験することが可能で、2年の研修期間を通じてプライマリ・ケアの基礎的診断能力を備えた医師の養成を目指します。

さらに、大学病院や県立病院などにおける研修機会を提供することにより、専門領域のさらなる習得を可能とするプログラムとなっています。

プログラム目標

医師としての人格を涵養し、医師及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、プライマリ・ケアを中心とした一般的な診療に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付ける。

研修科目・期間

1 年 次			
月数	26週 (6ヶ月)	4週 (1ヶ月)	8週 (2ヶ月)
ローテート 診療科	内 科 (一般外来)	救 急	麻酔 (4週は救急)

2 年 次		
月数	4週 (1ヶ月)	42週 (10ヶ月)
ローテート 診療科	地域医療 (在宅医療 一般外来)	選択研修（各診療科の選択は組合せ自由） ※ただし、到達目標を達成できるよう診療科を選択する必要あり ※協力型臨床研修病院（0 ≤ 2ヶ月）：京都大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院、神戸市立医療センター 中央市民病院、県立尼崎総合医療センター、県立はりま姫路総合医療センター、加古川中央市民病院、八鹿病院

1 ～ 2 年 次				
月数	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)
ローテート 診療科	小児	精神	外科	産婦

1 ～ 2 年次
4週 (1ヶ月)
救急外来日当直 (Walk-in)

○ 内科、救急、麻酔科、小児科、精神科、外科、産婦人科、地域医療、一般外来および在宅医療を必修で経験する。

○ 救急（必修12週）は、1年次の救急外来（4週）、麻酔科（4週）と2年間を通じて行う宿日直（月4回程度）のうち、1年次の救急研修と2年次の選択研修期間の宿日直を救急の並行研修とすることにより合計12週の研修とする。

○ 一般外来は、総合診療科・地域医療（必修及び選択研修）の期間中に並行研修を行うことよって計4週の研修を行う。

○ 地域医療は、日高医療センター、出石医療センター、朝来医療センター、村岡病院、香住病院または浜坂病院で行う。

○ 全研修期間を通じて、感染対策（院内感染や性感染症等）、予防医療（予防接種等）、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）、臨床病理検討会（CPC）等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を行う。

○ 2023年度のプログラムから県立はりま姫路総合医療センターを協力型臨床研修病院として登録する予定です。

※プログラムの内容は、厚生労働省の審査等により変更する場合があります。病院ホームページで最新の情報をご確認ください。

選択研修科目

本研修プログラムでは、基幹型病院である豊岡病院のほかに、次の大学病院・協力型臨床研修病院と病院群を構成して臨床研修を行いますので、基幹型病院にはない診療科や高度先進医療を含めた専門性の高い研修も可能となっています。ただし、豊岡病院外での研修は最長2ヶ月までとし、研修管理委員会と協力型臨床研修病院の許可を受ける必要があります。



公立豊岡病院 総合診療科、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器科、循環器内科、精神科、小児科・新生児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、呼吸器・心血管外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、病理診断科、リハビリテーション科、救急集中治療科



京都大学医学部附属病院 血液内科、糖尿病・内分泌・栄養内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、免疫・膠原病内科、脳神経内科、腎臓内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、心血管外科、呼吸器外科、精神科神経科、小児科、産科婦人科、麻酔科／集中治療部、初期診療・救急科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、脳神経外科、乳腺外科、小児外科、放射線治療科、放射線診断科、NICU、ICU、病理診断科、脳卒中診療部、腫瘍内科、形成外科、検査部・感染制御部



神戸大学医学部附属病院 総合内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、膠原病リウマチ内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、腫瘍・血液内科、血液内科、感染症内科、放射線科（放射線腫瘍科を含む）、小児科、皮膚科、精神科神経科、緩和支援治療科、食道胃腸外科、肝胆膵外科、乳腺内分泌外科、心血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、産科婦人科、形成外科（美容外科含む）、麻酔科、救命救急科、病理診断科、リハビリテーション科



神戸市立医療センター中央市民病院 循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、感染症科、腫瘍内科、緩和ケア内科、総合内科、精神・神経科、外科・移植外科、乳腺外科、心血管外科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、形成外科、婦人科、呼吸器外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、皮膚科、麻酔科、産科、小児科、新生児科、臨床病理科、放射線診断科、放射線治療科、中央手術部・集中治療部、救急救命センター・救急部、リハビリテーション科

兵庫県立尼崎総合医療センター

E R 総合診療科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、漢方内科、膠原病リウマチ内科、消化器外科・外科、呼吸器外科、心血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、小児科、小児外科、小児循環器内科、救急集中治療科、小児救急集中治療科、放射線科、病理診断科



兵庫県立はりま姫路総合医療センター

総合内科(内科)、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、膠原病(リウマチ)科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、腫瘍内科、血液内科、感染症内科、放射線診断科、放射線治療科、小児科、皮膚科、精神科、緩和ケア内科、外科、消化器外科、乳腺外科、心血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、麻酔科、救急科、病理診断科、リハビリテーション科



加古川中央市民病院

内科/総合内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、腫瘍・血液内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、小児循環器内科、外科、消化器外科、乳腺外科、心血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、麻酔科、精神神経科、放射線診断科・I V R科、放射線治療科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科



公立八鹿病院

内科・一般外来、外科、救急科・総合診療科、産婦人科、小児科、精神科、整形外科、麻酔科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、緩和ケア科、眼科、脳神経内科



経験症例Ⅰ（当直／救急外来）



- ・ 帯状疱疹
- ・ 頭部外傷
- ・ 閉塞性黄疸
- ・ 尿路感染症
- ・ 意識消失
- ・ 細菌性腸炎
- ・ 群発性頭痛
- ・ 小児肺炎
- ・ 小児屈筋腱断裂
- ・ 頻脈性不整脈
- ・ 胆のう結石症 など一晩 10 症例程度を経験

問診・身体所見

鑑別

検査・治療法の検討

救急医へのコンサルト

入院

帰宅

経験症例Ⅱ（ローテーション期間）

内科をメインにローテーションした K 研修医
合計 177 症例

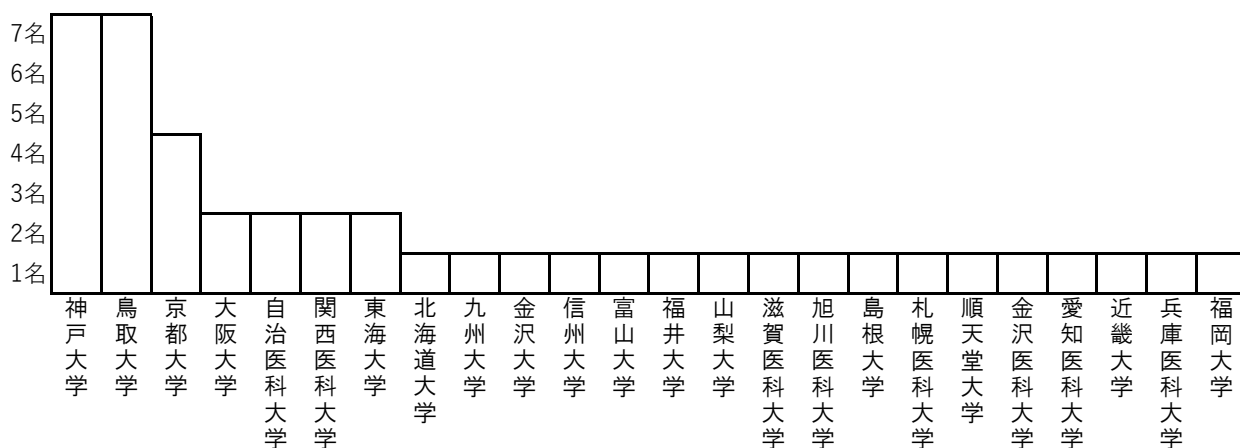
その他の細菌性疾患	1
消化器の悪性新生物	12
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	10
女性生殖系の悪性新生物	1
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	2
性状不詳または不明の新生物	2
甲状腺障害	2
糖尿病	7
その他の内分泌腺障害	1
その他の栄養欠乏症	1
代謝障害	2
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1
気分〔感情〕障害	2
中枢神経系の炎症性疾患	1
主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	1
錐体外路障害及び異常運動	1
中枢神経系の脱髄疾患	1
挿入性及び発作性障害	3
多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害	1
慢性リウマチ性心疾患	1
高血圧性疾患	1
虚血性心疾患	30
肺性心疾患及び肺循環疾患	2
その他の型の心疾患	30
脳血管疾患	14
動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	5
静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	1
循環器系のその他及び不明の障害	1
インフルエンザ及び肺炎	1
その他の急性下気道感染症	1
外的因子による肺炎	3
主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	2
下気道の化膿性及び え＜壊＞死性病態	2
他に分類される疾患における呼吸器障害	1
口腔、唾液腺及び顎の疾患	1
食道、胃及び十二指腸の疾患	2
食道、胃及び十二指腸の疾患	1
胆のう＜嚢＞、胆管及び膵の障害	9
皮膚及び皮下組織の感染症	2
皮膚炎及び湿疹	1
腎尿管間質性疾患	1
腎不全	1
女性生殖系の非炎症性障害	1
主として妊娠に関連するその他の母体障害	1
消化器系のその他の先天奇形	3
全身症状及び徴候	1
頭部損傷	2
胸部＜郭＞損傷	1
検査及び診査のための保健サービスの利用者	2
家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態 に関連する健康障害をきたす恐れのある者	1

外科をメインにローテーションした A 研修医
合計 131 症例

その他の細菌性疾患	3
その他のウイルス性疾患	1
消化器の悪性新生物	14
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	7
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	5
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物、原発と記載された又は推定されたもの	5
上皮内新生物	1
良性新生物	3
糖尿病	2
代謝障害	4
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1
気分〔感情〕障害	1
挿入性及び発作性障害	1
神経、神経根及び神経そう＜叢＞の障害	1
多発（性）ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害	1
神経筋接合部及び筋の疾患	1
神経系のその他の障害	1
内耳疾患	1
高血圧性疾患	2
虚血性心疾患	1
肺性心疾患及び肺循環疾患	2
その他の型の心疾患	6
脳血管疾患	13
動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	2
インフルエンザ及び肺炎	3
その他の急性下気道感染症	1
慢性下気道疾患	1
主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	2
食道、胃及び十二指腸の疾患	4
ヘルニア	4
腸のその他の疾患	7
肝疾患	1
胆のう＜嚢＞、胆管及び膵の障害	9
皮膚及び皮下組織の感染症	1
じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑	1
脊椎障害	1
その他の骨障害	2
腎尿管間質性疾患	2
腎不全	1
泌尿系のその他の疾患	1
男性生殖系の疾患	1
流産に終わった妊娠	1
胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	3
分娩	2
認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候	1
全身症状及び徴候	1
頭部損傷	1
外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	1

※ 2 年間（2019.4.1-2021.3.31）の研修で担当医となった症例のみを抽出（退院サマリより）

研修医の出身大学



(2017～2021年度・たすきがけを含む)

研修医の進路

専門領域 臨床研修終了年	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科
2018年3月	尼崎総合医療センター①	神戸大学① 兵庫医科大学①			神戸大学①
2019年3月	京都大学①				鳥取大学①
2020年3月	神戸大学② 大阪赤十字病院①			大阪大学①	神戸市立中央市民病院①
2021年3月	神戸大学①	神戸大学②		京都大学①	神戸市立中央市民病院①

専門領域 臨床研修終了年	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科
2018年3月				東京慈恵会医科大学①	
2019年3月					
2020年3月	神戸大学②				
2021年3月		京都大学①			兵庫医科大学①

専門領域 臨床研修終了年	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	臨床検査
2018年3月					
2019年3月	神戸大学① 名古屋大学①		神戸市立中央市民病院①		
2020年3月					
2021年3月					

専門領域 臨床研修終了年	救急科	形成外科	リハビリテーション科	総合診療
2018年3月	公立豊岡病院①			丹波医療センター①
2019年3月				丹波医療センター① 鳥取大学①
2020年3月		新潟大学①		丹波医療センター①
2021年3月				

○●病院/大学…基幹施設名
①…登録者数

プログラム責任者からのメッセージ



副院長・プログラム責任者
那須 通寛

我が国では、高齢者人口の増加に対処すべく医療制度改革の速度が早められ、また社会からの要請に対して専門医の質を担保するために各学会とは独立した日本専門医機構主導の制度新設が進行しています。各制度はまだ確立したものでなく、不透明な部分を残しており、これらの流れは今後 10 年から 20 年ぐらいは続いていくと考えられます。不確実な制度改革と社会の医療需要の変容の中で、医学生諸君は不安を感じながら将来の夢を描いていることと思います。私は医学部で基礎的な医学知識を獲得した後の初期研修 2 年間の目的は、臨床現場の中で医師としての適性の確認や将来の可能性の模索だと捉えています。

豊岡病院の研修では、各専門科、僻地連携病院での実習を通じ 130-200 症例を担当し、common disease の理解、臨床基本手技の習熟を行うことができます。過去の臨床研修医からのアンケートでは、回収できた 8 割弱の方達から将来目指したい医師と出会えたと答えられていますので、研修先病院として一考の価値はあると考えています。

豊岡病院の特徴

公立豊岡病院は、明治 4 年に開設されて以来、兵庫県北部（但馬地域）の中核病院として一般医療水準の向上を図るとともに、急性期医療・高度専門医療・救急医療・地域医療を担当する県下有数の病院として発展してきました。150 年にわたって刻まれた歴史は、公立病院としては全国で 2 番目の古さを誇ります。

現在では、28 診療科と併設施設（救命救急センター・認知症疾患医療センター・周産期医療センター）を中心に 518 床、医師数 144 名を擁する総合病院に成長しています。

また、当院は二次医療圏では唯一、集中治療や 24 時間体制の救急治療に対応できる、地域医療の『最後の砦』となっており、救急患者や紹介患者も多く、示唆に富む症例を多く経験することが可能です。

医師の出身大学は、京都大学、神戸大学、自治医科大学、鳥取大学、三重大学など、約 30 に及び、学閥にとらわれない診療科間の円滑な協力体制があることに加え、自由な意見交換ができる医局の環境があります。上級医やコメディカルとの距離も近いことから、研修を進めやすい環境が整っています。



公立豊岡病院組合立医療センター▽



日高医療センター



出石医療センター



朝来医療センター

指導医からのメッセージ

呼吸器内科 兼 総合診療科



部長・副プログラム責任者
中治 仁志

今後の日本は高齢化社会が進展していくことが確実視されています。高齢化社会における医療の中で総合内科医の重要性が指摘されています。総合内科医の診療には各症例において多数の問題点・病態が存在するため、これらを整理した上で最も妥当な判断をする能力が求められます。

公立豊岡病院の総合診療科では一般内科初診症例のトリアージや common disease の診療に留まらず、各領域の専門医と連携をとりながら専門的な疾患の診断および先々の治療にまで行うことにより、各疾患や病態についての診断、治療について深く理解することができます。

特に総合診療科と呼吸器内科は共同で診療しており、肺炎をはじめとする一般的な疾患から悪性腫瘍などの専門的疾患の診断、治療を含めた全てを担うことによって内科医としての醍醐味を味わうことができます。当科では毎日入院症例のカンファレンスを行っています。カンファレンスは堅苦しくない自由な雰囲気の中で各症例に対しての議論ができる環境です。各指導医・研修医が様々な症例の経験や知識を共有することにより一緒に学び、成長していくことを目標としています。内科以外の診療科を希望する研修医にとっても総合診療科での研修は今後の診療に役立つ多くの知識と経験を得ることに繋がるものと考えています。是非豊岡病院で研修しましょう。

消化器科

消化器科は現在、スタッフ 5 名で診療業務を行っています。当院は病床数約 500、癌拠点病院、3 次救急病院であり急性期から慢性期まで、また良性疾患から悪性疾患まで幅広く診療しています。

特筆すべきは消化管出血に対する緊急内視鏡的止血、総胆管結石に対する緊急 ERCP など緊急処置が多いことです。また悪性疾患に対しては早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的切除術、また手術不能進行癌に対しては緩和としての胆管ステント留置、消化管ステント留置など積極的に行っています。

研修医の先生にはこれらの患者さんの担当医になっていただき、指導医とともに治療にあたっていていただいております。従いまして研修医の先生には第一助手として様々な処置に参加していただいております。スタッフが少ないこともあり研修医の先生は重要な戦力であり、決してお客さんや雑用係ではありません。処置に参加することで自分の患者さん、という意識が高まり患者さんとの人間関係構築にも寄与すると考えています。

また当科では研修医の先生に積極的に上部消化管内視鏡検査を行っていただいております。消化器研修の醍醐味は、内視鏡に触れることであると考えているからです。せっかく研修にきていただいた先生に見学だけで終わらせないように内視鏡モデルによるシュミレーション、次に実際の検査における内視鏡の抜去、そしていよいよ内視鏡の挿入、というように進めていき 2 カ月の研修終了時には普通に挿入から抜去まで出来るようになっていただいております（もちろん観察は 2 カ月ではまだまだです）。是非当科で消化器の面白さ、そして辛さも学んでください。



消化器科部長
山田 貴裕

麻酔科



麻酔科部長
正田 丈裕

当院の研修プログラムでは麻酔科研修が 2 ヶ月あります。このことに対して、これまで研修された研修医からは麻酔科の研修期間が 2 ヶ月は長いという意見もありました。しかし、「お客さん」ではなく麻酔科をしっかり研修するためには少なくとも 2 ヶ月は必要と考えています。実際、1 ヶ月目でとりあえず麻酔とはどのようなものか全体像が分かってきます。2 ヶ月目で指導医の指示のもとで ASA1-2 の患者の麻酔をかけることができるようになります。短期間の中途半端な研修をするよりも時間をかけてしっかりと研修をしたほうが有意義であると考えています。

麻酔科では他の科を回る前に習得すべき基本的な手技を習得できます。例えば静脈路確保は麻酔をかける前には絶対必要ですので毎日練習できますし、気管挿管も出来るようになります。また、昇圧剤の投与の仕方も習得できます。動脈ラインの確保も練習できます。救急科を回っても緊急性が高く、ゆっくりと上級医から指導を受けられないことが多いと思います。麻酔科を回ることによって緊急時対応の基本的な事は習得できると思います。

当院の麻酔科の特徴は、心臓外科をはじめ多くの種類の手術の麻酔を行っている事、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の患者の麻酔を行っている事、緊急手術の麻酔が全体の約 3 割と緊急の割合が多いという事です。是非、豊岡病院で研修しましょう。

救急集中治療科

但馬救命救急センター Tajima Emergency & Critical Care Medical Center (TECCMC)

医師として何年働くか考えたことはありますか？概ね 40 年といったところでしょうか。医師という職業は毎日が勉強です。しかし、医師という職業を支える礎は最初の数年にかかっているといっても過言ではありません。また 6 年間医学部で勉強し医師国家試験合格した後、その知識を実践可能なものにしたくありませんか。

これらの目的を達成するには、ありとあらゆる患者、疾病・疾患を数多く診ることが手っ取り早く、確実な方略になります。もちろん専門的な知識、技術の修得も大切なことです。そして何よりも優秀で熱意ある指導医の存在が不可欠です。

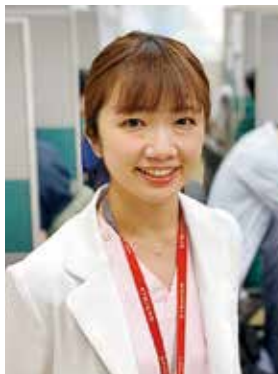
TECCMC には救急科指導医・専門医、集中治療専門医、外傷専門医、外科指導医・専門医などを持ち、臨床研修指導医資格を有する 20 名を越える救急医が 24 時間、365 日専属で勤務しています。救急医学、集中治療学を専門としている医師集団です。そして院内全科 ON CALL 制で、必要時はいつでもコンサルト可能です。初期研修医の日当直業務は救急医と共に救急外来、救命救急センター勤務を行い、主には WALK IN 患者の First Touch を行います。問診、身体所見から鑑別を行い、必要な検査、治療を考え、バックアップの救急医に必ずコンサルトを行い診療が完結します。さらに 1-2 ヶ月の TECCMC 研修期間中は救急車対応、ICU 管理も指導医と共にを行います。2 年間の研修実績を記録する EPOC は、毎年 TECCMC での経験内容で埋められています。

ドクターヘリ、ドクターカーでの患者集約化による豊富な症例と充実した指導体制を持つ TECCMC および当院で医師人生の盤石な礎を築いて下さい。待ってます！！



但馬救命救急センター長
救急集中治療科部長
永嶋 太

研修医からのメッセージ



河野 遥香 研修医

私は茨城県出身で、神奈川の大学を卒業しました。もともと初期研修先は研修医が治療の一線に立つことができる市中病院を考えており、そこにプライベートな事情が加わり豊岡病院を選びました。

当院は兵庫県北部を中心に広範囲をカバーする、地域の最後の砦とも言える病院です。どの診療科においてもcommon diseaseは充実しており、時に稀な症例も経験できます。また救急救命センターでの勤務はwalk in～救急車・ドクターヘリなどの救急搬送症例を、周産期医療センターでは、一般～ハイリスクなお産や新生児医療も研修することができます。

研修は決して楽ではありませんが、経験豊富な先生方が各々の研修医に合わせて指導して下さるおかげで、医師として必要なことを習得しつつも、無理の無いペースで研修できると感じています。特に2年目は柔軟にローテーションを組めるので、志望科がある人もそうでない人も有意義な研修ができると思います。

私にとって慣れない土地、関西弁、気候、さらにはCOVID-19の流行とこれまでと全く違った環境におかれ、初期研修スタート時は正直つらいこともありましたが、上級医の先生方、先輩方、病院スタッフからのご指導、仲良く切磋琢磨できる同期のおかげで、気付けば1年間はあっという間に過ぎていました。2年目になり、後輩ができたことで先輩としての意識も芽生え、日々の研修の質が変わったように思います。

但馬は、交通は不便で、都会のように遊べるところはありませんが、美味しい食材、雰囲気ばっちりの美味しいカフェや居酒屋・ご飯屋さんがあります。ダイビング・釣り、自転車、スキー・スノボ、キャンプなどのアウトドアレジャーを楽しめます。人も優しいです。初めての豊岡行きの電車から見た、山と川と田畑が延々続く風景に不安を覚えました…今ではほっとする場所になっています。医師の基本をしっかりと吸収しつつ、都会では味わえない体験ができる2年間になると思います。

私は幼稚園から小学3年生までの5年間で豊岡市で過ごしました。この度、ご縁がありまして、20年の時を経て、初期研修医の2年間で豊岡の地で過ごすことになりました。その頃のイメージは自然が多く、のどかな土地で、地域社会が密で周りの方々は温厚な人達が多いという印象でした。そのイメージは20年近く経っても変わらず、人柄の良い方々に囲まれた職場がそこにはありました。

高齢者も多く、病院を利用される方も沢山おられ、その中で豊岡病院は但馬地域で「最後の砦」として医療の中核を担っており、様々な疾患で来院されます。初期研修医として臨床研修していく中で、common diseaseを経験しながら主体的に動くことで経験を積むことができました。手技も様々な経験をさせてあげようという雰囲気が病院全体に根付いており、上級医の先生の手厚い指導の下でやらせていただく機会がたくさんあり、内科系志望・外科系志望を問わず幅広く研修経験を積むことができました。市中病院の良い部分がふんだんに詰まった病院だと感じています。

研修医の人数も1年と2年でそれぞれ10人弱なので、同期も仲が良く、先輩後輩でとても良好な関係が築けるのも魅力だと思います。

休日は新鮮な食材を楽しめる居酒屋や、実は最近増えつつあるお洒落なカフェに行ったり、有名な城崎温泉に行って気分転換をして月曜日を迎えることができます。今年はCOVID-19の影響もあり、機会はあまりなかったですが、夏はダイビングに行く先生や、冬は仕事終わりにスキーやスノーボードをする先生もおり、アウトドアレジャーも楽しむことができます。

医師として必要な能力を学べる環境が整っていることはもちろん、都会で過ごしてきた人にも感じて欲しい、人の温かみや地方の魅力も詰まった環境で、より良い初期研修を過ごせることは間違いありません。一度見学に来て魅力を存分に感じてください。



松本 知丈 研修医

Q & A

Q 研修医宿舎はありますか？

A 病院の敷地内に研修医宿舎を設けています。希望者全員に提供が可能です。

Q オリエンテーションはありますか？

A 採用時に医療安全と事故防止、医療倫理、感染管理、インスリン製剤の取扱い・麻薬について、メンタルヘルス、保険診療・退院サマリー操作説明、処方入力説明、医療情報システム研修、EPOC 2 操作研修、臨床技術トレーニング（身体診察、縫合実習、末梢静脈血管へのアクセスとカテーテル管理）、輸液、輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い等の研修を実施しています。

Q ローテーションはいつ頃決定しますか？

A マッチング発表後（1 1 月頃）に希望診療科のアンケートを実施して、3 月中旬頃に決定しお知らせします。

Q ローテーションの変更は可能ですか？

A ローテーション変更前の診療科と変更後の診療科の了承があれば変更は可能です。（ただし、研修期間内に到達目標を達成できるように診療科を選択する必要があります。）

Q 豊岡病院にない診療科を回りたいのですが。

A 豊岡病院プログラムの2 年目選択研修科目では、京都大学、神戸大学、神戸市立医療センター中央市民病院、尼崎総合医療センター、はりま姫路総合医療センター、加古川中央市民病院、八鹿病院での研修が可能となっていますので、マイナー科を含めた豊富な選択肢が提供できます。（院外での研修は最長2 ヶ月までとします。）

Q 当直は何月頃から始まりますか？

A 4 月中頃から開始します。当直に慣れるまでは2 年目研修医とペアで当直を行うので安心です。

Q 勉強会・講演会・カンファレンスはありますか？

A 医療安全や感染管理研修、研修医セミナー（5 回/年）、県立尼崎総合医療センターとの合同Webカンファレンス（1 回/月）、救命救急センターが主催する実技講座（6 回/年）、救急勉強会（1 回/週）などが随時開催されています。

Q 研修に対する要望は聞いてもらえますか？

A 豊岡病院では毎月研修医ミーティングを開催して、研修医から研修全般の要望を聞き取り研修環境の改善に繋げています。